

物語
1

Aさん
[農業協同組合]



中高生の時から銀行や株といったお金にまつわることに興味があった。だから、大学は自分が好きな経済や社会について学べるところを志望した。

将来社会人になること、そしてその前に就活があることは低学年から意識していた。1、2年生でなるべく単位を取って、ゆとりを持って就活に臨めるよう準備をした。アルバイトは飲食店と個別指導塾で行い、勤め先の塾の先輩から就活の情報を得た。また、その塾では生徒や保護者、飲食店では常連のお客様など、さまざまな人と接する経験を重ねる中、「人と深く関わる仕事がしたい」と思うようになった。

3年生の3月、早期選考の会社で面接が始まるが、なかなか1次面接を通らず苦しんだ。周りから第一印象が「大人しそうな人」と見られがちなことから、もっと表情を豊かにし、傾きやリアクションを大げさなくらいに表現していくことを意識し、面接練習を行った。また、時間内に伝えたいことを伝えられないといった課題もあり、結論からわかりやすく話す練習も、日常的に行つた。その結果、徐々に面接で通るようになった。

初めの頃は、就活の合否で一喜一憂していた。そのうち、明るくハキハキと話すことがポジティブになれることへの自信を持てるようになった。就活終盤は「私を落とす会社は見る目がない!」と考えられるようになり、精神的に成長した。

就職することになる内定先は、支店訪問に行った際、就活生の自分にもとても丁寧に接してくれ、人を大切にしている企業だと実感した。そこに絶対内定したいからこそ、自分を偽らず素直な気持ちで最後まで選考に臨み、無事内定をいただけた。

働き方へのこだわりとしては、育児支援制度が整っていること、そして転勤がなく自宅から通えることを重視した。また、就活を振り返って印象に残っていることは、3年の「社会人デビュー講座 応用編」で、面接練習や自己PRを行ったとき、同じクラスの仲間からフィードバックを受け、自分では伝わると思った内容が意外なところで疑問が生じていると気づき、その内容を見直すことに繋がった経験だ。

後輩へのアドバイス



就活で一番大切なことは「自分を偽らないこと」だと思う。「こんな質問したらダメかな?」と思っても、自分がそこで働くことを想像したときに必要なことであれば、思い切って質問することが今後につながる。そして、自分の考えをしっかりと伝えることは、これから内定を出す会社にとってもメリットになると思う。それは、自分自身を十分理解してくれた上で受け止めてくれるからだ。そのことは、そのような会社かどうかを見極めるポイントになる。だから、しっかりと自分のライフプランを早めに考えて、伝えられるようにしておくことが大切だ。

物語
5

Eさん
[大手IT企業]



大学入学時には、将来何がしたいか全く決まっていなかった。でも、社会マネジメント学科で幅広く学び、3年間の中できっと自分がやりたいことが決まると思っていた。

そのような中で、IT業界を調べていると、情報のこと学べる上、幅広い業界に携わることができることを知った。IT業界に居ながらにして他の業界もわかることが、次の自分のキャリアを考えるステップにもなり得ると考え、興味を持った。

一方、大学1年生からカフェでアルバイトをしていた。客層が幅広く、クレームを受けることも多かったが、お客様一人ひとりが心地よく過ごしていただくにはどうすればよいかを考えながら仕事をしていた。すると、お客様から仕事を評価していただけるようになった。また、後輩指導や業務の効率化の提案は、積極的に行うようになっていた。

就活は、3年生の9月からスタートした。1日だけのインターンシップに数多く参加した。また、IT企業に就職しているいとこが、就活スケジュールの作成、エントリーシートの添削、面接指導など、就活全般にわたって協力してくれた。

就職する内定先は、もともと第1志望ではなかったが、母に勧められ説明会に参加した。すると、採用担当者が非常に丁寧で良い方だった。こういう方が多い会社なのだと気になり、選考に進んだ。その後も企業イメージは変わらず、良い印象のままだった。そして、第1志望になった。

働き方へのこだわりには3つある。まず、当面は自宅から通勤ができること。そして、専門性の高いスキルが磨けること。さらに、多様な人材を大切にしている環境を重視していることだ。

IT業界に飛び込むことは、新しいことを学べるチャンスだと思っている。これからさらに成長する業界だと捉えており、その勉強ができるることは自分の強みになると思っている。

内定先については、一緒に働く人たちの人柄が温かく、物腰が柔らかい人が多いと感じている。また、企業の技術力も他社と比べて高いと考えている。そして、これから上場を目指してがんばっている成長企業だと理解している。

後輩へのアドバイス



就活の最初の頃は、対面の面接で緊張してしまい、言いたいことを伝えきれなかったり、想定外の質問に戸惑ってしまったりしたことがあった。次のステップにはつながったが、悔いが残っている。事前に、質疑応答の準備を十分にすることが大切だ。

就活は自分を良い方向に変えるきっかけになった。丁寧語や敬語を勉強し、ビジネス上の言葉遣いを身につけたことや、自分の気持ちを上手にコントロールできることは、今後にもつながっていくと思う。

物語
7

Gさん
[市役所]



小学生からの思いを持ち続け、公務員試験に専念した。

小学生の頃に体験した東日本大震災から、自分にも何かできないかという思いを持ち続けていた。そして、大学に入学し1年生からボランティア活動に参加した。地域の人たちと一緒に、まちづくりをしたいと思ったからだ。

2年生になったとき、大学主催の「公務員対策講座」を受講し、公務員試験など具体的に公務員になるためにはどうすればよいかを知ることができた。また、自治体の市役所職員の方と接する中で、自分も地域の住民の方とのまちづくりに関わっていきたいと、改めて思うようになった。具体的には、ボランティアで通っていたのが大船渡市だったので、そこと友好都市だった第1志望の市の仕事に関わりたいと思えるようになった。

そして、2年生の冬になると、周りで就活を始める人が目に付き、少し焦りを感じ始めるようになった。そこで、公務員試験の1次試験に不安を覚えたこともあり、大学とのダブルスクールで公務員試験対策予備校に通うことになった。

3年生になると、大学の公務員向けの講座で数学に関する授業を好んで受講していたが、それが進路選択にも繋がっていたと思っている。後輩も、大学での授業をうまく活用してほしい。

大学ではいろいろなことに取り組むことができた。それが最終的には結果に繋がったり、自分を認めてもらったりした。本当にいろいろな人に助けてもらったからできたことだと思う。

するものは、すべて参加した。また、就職支援課に紹介してもらい、相模原市のインターンシップに参加させていただいた。オンラインではあったが、各部署がどんな雰囲気で、どんな仕事をしているのかを、リアルに知ることができた。一方、民間企業の説明会にも参加してみたが、かえって公務員への思いの強さを再確認することになった。

3年生の冬には、就職支援課で先輩に話を聴かせてもらったり、大学で行われている対策講座にすべて参加したり、論文に関してはゼミの先生にも見ていただき、対策を進めた。

4年生になり、練習のために受けた自治体ではWebでの1次試験が通過できず、安心材料にはならなかった。その後、第1志望の市役所の1次試験前は、ひたすら1次試験準備に集中した。そして、それを通過できた後は、面接と論文対策を毎日ひたすら行った。

そのおかげで、何とか合格できたと思う。とにかく、自分ができることをやり切って試験に臨み、内定をいただけたと思う。

物語
2

Bさん
[大手メガネチェーン]



大学1年から3年にかけて、社会経験ができたり働く人の話を聞いたりできる、さまざまな授業やプロジェクトに参加した。そのような機会を通して、直接人と関わることが楽しいと思った。また、商品を開発し販売することの楽しさも実感した。

3年生になり早い時期から合同説明会への参加や企業研究を進めたものの、なかなか志望業界を絞れず、就活における軸もよくわからなかった。

3年生の冬、「夢かなセンター」のキャリアカウンセラーに相談に行くことにした。そのとき、対応してくれた方が「〇〇さんのここは強みじゃないかな?」といった、自分では気づかなかつた長所について優しくアドバイスをくれ、とても参考になった。その後、何度も同じカウンセラーのところへ通い、就活に向けて対策を行った。

自己分析のために、これまでの自分の人生を振り返ると、音楽に触れる機会が多かったことに気づいた。それとも、ピアノ、クラリネット、ドラムと、新しい楽器に「挑戦」を繰り返してきた自分がいた。そして、そのような「挑戦」を通じて自分が成長している時にこそ、面白い、楽しいと感じていることがわかった。そして、企業選びは業界や事業内容ではなく、その企業で「挑戦し成長ができ、それが社会貢献につながるか」を軸に、就活を進めることにした。

企業選びの基準として、「会社自体が何かに挑戦しようとしているか」を重視した。そして、メガネを取り扱う会社に内定をもらうことができた。その会社は、メガネが売れなくなってしまっても、他の分野で勝負ができるよう研究開発を進めていると聞き、自分に合っていると感じたからだ。3年生の1月に内々定をもらった後も、4年生の7月までは就活で「挑戦」し続け、最終的に今の内定先に就職することを決めた。

就活を振り返ると、キャリアカウンセラーから適切なアドバイスがもらえたことが大きかった。自分のこれまでの経験やその時の気持ちを話し、自分では気づけない特徴や自分の良さを言語化してもらい、エントリーシートや面接に役立てることができた。そして、毎回カウンセラーに会いに行くのが楽しみになっていた。

就活は、自分にとってとても良い経験だったと思う。自分のことを振り返り、自分をよく知ることができたし、さまざまな人とたくさん話したことが楽しかった。せっかくの貴重な機会なので、これから就活に臨む人は就活そのものを楽しんでほしい。そして、苦戦しているときは1人で抱え込まず、だれかに相談してヒントをもらうのが良いと思う。の中でも、キャリアカウンセラーはとくにおすすめだ。まずは、気負わずに一度「夢かなセンター」に行ってみると、優しく接してくれる。そして、自分1人ではなかなかわからない気づきをたくさんもらえる。

物語
6

Fさん
[地方銀行]



就活データ

志望業界：金融、コンサルティング

インターンシップ参加：9社

インターンシップ期間
(1番長かったもの)：1日

開始時期：3年生4月

エントリーシート提出：15社

面接社数：8社

内定社数：1社

初内定：4年生5月

就職先内定：4年生5月

就活終了：4年生5月

いろいろな人のアドバイスから、自分が客観視できた。

2年生のときは、コロナ禍のためできることが制限されていた。しかしその分、就活をがんばろう、できることをがんばろうという気持ちになれた。

就活は3年生の4月からスタートできた。とくに、3年生の春から受講していた「就職準備講座」での自己理解のための材料探しが、とても役に立った。

志望を金融業界に決めたきっかけは、コロナ禍で飲食店などが休業を余儀なくされたニュースを目の当たりにしたときに、お金の大切さを痛感し、人を助けていたからだ。また、今まで暮らしてきた地元に恩返ししたいと思ったことや、お客様と直接コミュニケーションをとる仕事に関わっていきたいという自分の思いが整理できたとき、地元神奈川にある金融系の企業に勤めたいと考えるようになった。

業界を決めた後、SPI試験の対策をはじめ、ガクチカや自己PRの準備も始めた。書いた文章を就職支援課にもっていき、客観的な視点で見てもらった。それが、とても役に立った。毎回見ていただく方は変わったが、その分いろいろな視点で見てくれたことが良かったと思っている。自分で満足するのではなく、客観的にアドバイスをもらうことは大事だと、改めて思った。

4年生の春になっても金融業界の採用への動きがなかなか始まらなかったため、金融業界へのエントリーが始まられなかった。そのため、少し焦りを感じていたが、まずは練習も兼ねてコンサル業界を受け、気持ちを落ち着かせることにした。コンサル業界は、「お客様を助けるため」という点で、金融業界と同じだと考えたからだ。

そして、この経験を活かし、金融業界のエントリーに臨み、自信をもって取り組むことができた。すると、早々に第1志望の企業から内定がいただけた。

働き方へのこだわりとしては、まず一般職でお客さんと窓口で直接コミュニケーションができる仕事に携わることだ。そして、神奈川県内に留まり、地元に貢献できることを大切に考えている。その他では、趣味も大切にしたいので、カレンダー通りの休みがされることも重視している。

後輩へのアドバイス

第1志望の企業から内定がもらえたので、その点では良い評価をしたい。ただ、準備についてはバタバタして進められなかった点もある。やはり、準備はしっかりしておきたい。

一方、4年生の12月に、就活のときから内定先に言われていた資格試験があった。11月は計画を立てて勉強していた。金融について直接学んでいたわけではないから、難しく感じる面もあったが、自分が学ぶことで「お客様を助けることができる」、「自分の生活にも役に立つ」と思い、がんばれた。

物語
8

Hさん
[制作プロダクション]



就活データ

志望業界：IT、番組制作

インターンシップ参加：1社

インターンシップ期間
(1番長かったもの)：1日

開始時期：3年生3月

エントリーシート提出：20社

面接社数：10社

内定社数：1社

初内定：4年生6月

就職先内定：4年生6月

就活終了：4年生6月

後輩へのアドバイス

就活に出遅れた感もあり、なかなか内定が出ず焦った時期もあったが、運もあり非常に自分にマッチした企業から内定をもらえたと思っている。後輩たちに伝えたいことは、4点ある。

①就活期間も就活ばかりにならないこと。息抜きも大切だ。②友人とのコミュニケーション。他の業界や企業の面接の内容なども情報交換できる。③いろいろな業界を見ること。業界や職種より、社風が大事だと思った。④マイナス思考になりすぎないこと。「受かる、受からない」ではなく「合う、合わない」だと思う。

自分とその会社の相性が良いと感じられるかが大事だ。

大学選びは、家から近い大学で幅広く学べる学科として、社会マネジメント学科に入学した。さまざまなことを学ぶ中で、映像制作に関する授業が非常に面白く、メディア系に関心を持った。とくに1分間のCM制作を行った授業は印象的だった。構成や演出、撮影、編集まですべて自分で行うのは大変だったが、これから入社する会社での仕事のイメージにもつながっている。

社会マネジメント学科は、自分が面白いと思える先生や学びに出会える可能性が高い学科なので、いろいろ幅を広げてさまざまな科目に挑戦してみることが大事だと思った。また、就活では知らない人と話す機会が多く、「社会人デビュー講座 応用編」は、その練習になった。自分は、もともと初めての人と話すのがあまり得意ではなかったが、この授業で慣れたように思う。ガクチカ(大学時代にがんばったこと)を書くための準備も、この講座でできた。

就活は、3年生の6月から合同説明会に何度か足を運んだものの、雰囲気に圧倒されてしまい、そこから先に踏み出せなかった。そのため、本格的に始めたのは3年生の3月で、インターンシップへの参加も4年生の春になつてからとなった。

当初はIT業界に絞って活動していた。しかし、なかなか内定が出ず焦っていた。そのこともあり、4月に入ってからは映像業界も考えるようになった。

就職先へのこだわりについては、「自分がその会社で働くことに夢中になれること」が最も重要なポイントだと考えている。普段から「自分も他人も面白くしたい」という気持ちがあり、その意味で、映像制作会社の中でも報道よりはバラエティ番組に力を入れている会社が良いと思っていた。しかし、実際に面接に行くと、扱っている番組とは異なり社員の雰囲気など社風での相性が会社ごとに違うように感じた。今回内定がもらえた会社は報道番組が中心のため、初めの頃は志望度があまり高くなかった。福利厚生や待遇が良い会社も受けていたものの、最終的には自分とその会社の相性が良いと感じられるかが大事だと思っている。